

6/22-28#2和解の務め: I. 私たちが和解の基本的な理解を持つことは助けになります: A和解の必要: 敵意、敵。 **B**和解の意義: 平和を作る。 **C**和解の手段: キリスト。 **D**和解の手続き: 十字架。 **E**和解の範囲: 天と地にある万物。 **F**和解の領域: 一つからだの中で。 **G**和解の事実: 法理的な贖いと信仰による義認に基づく神の御前での私たちの地位。 **H**和解の経験: 一つ霊の中で御父へと近づく。 **II. 新契約の奉仕者たちはキリストの大使として、和解の務めを遂行します: 2コリント 5:18** これらすべてのものは、神から出ています。彼はキリストを通して、私たちをご自身に和解させ、その和解の務めを、私たちに与えてくださいました。 **19** すなわち、神はキリストにあって、世の人をご自身に和解させ、...和解の言を私たちに託されたのです。 **20** ですから、私たちはキリストのために大使であり、いわば神が私たちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。 **A**キリストの大使は、宇宙における最高の権威である神を代行する者です。 **B**使徒たちはキリストによって権威が与えられて、彼を代行し、和解の働きを行ないました。 **C**和解の務めは、罪人を神へと連れ戻すことだけではなく、信者たちを絶対的に神の中へともたらして、彼らを絶対的に神と一にすることです。 **D**人が神へと完全に和解させられるためには、二つの段階が必要となります: **1**第一段階は、罪人を罪から神に和解させることです: **a**この目的のために、キリストは私たちの罪のために死にました。それは、私たちが赦されるためです。 **b**キリストは十字架上で私たちの罪を担いました。それは、私たちの罪が神によって裁かれるためです。 **2**第二段階は、天然の命の中で生きている信者たちを、肉から神に和解させることです: **a**この目的のために、キリストは私たちという人に代わって死にました。それは、私たちが復活の命の中で、彼に生きるためです。 **5:14** なぜなら、キリストの愛が私たちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。 **b**キリストは私たちに代わって罪とされました。それは、罪が裁かれて、除き去られるためです。 **E**私たちは和解の務めを遂行しようとするなら、十字架につけられたキリストと一体化される必要があります。 **ガラテヤ2:20** 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておら

れるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。 **5:24** しかし、キリスト・イエスのものである私たちは、肉をその情と欲と共に十字架につけてしまったのです。 **F**コリント人は依然として肉の中で生きていました。すなわち、魂、外なる人、天然の存在の中で生きていました: **1**肉、天然の人という幕は、彼らを神から分離しました。 **2**パウロは働いて、肉である分離する幕を切り刻んでいました。それによってコリントの信者たちは至聖所の中へと入ることができました。 **G**私たちは神に完全に和解させられるときはじめて、完全に救われます。 **H**私たちがどれほど人を神にもたらし、また神の中へともたらすことができるかは、私たちと神との関係がどうであるかによって常に測られます。私たちは神の中にいればいるほど、ますます人を和解させて神の中へともたらすことができます。 **III. 和解の務めは、私たちが神へと連れ戻して、私たちがキリストの中で神の義となるようにします: 2コリント5:21** 神は罪を知らなかった方を、私たちに代わって罪とされました。それは、私たちが彼の中で神の義となるためです。 **A**私たちは神によって義とされるだけではありません。私たちは実は神の義となるのです。 **B**キリストが十字架上で私たちの身代わりとして死なれた時、神は彼を、罪を担う者と考ただけでなく、罪そのものと考えました。今やキリストは復活の中で、命として私たちの中へと入って来ます。この命は私たちの内側で生きており、私たちが構成して神の義となさせます。 **C**キリストは身代わりとして、私たちのために罪とされました。今や私たちは、彼が構成することによって、彼の中で神の義となります: **1**「彼の中で」という語句が意味するのは、単に地位的ではなく、復活の中で有機的にキリストとの結合の中にあるということです。 **2**キリストが十字架上で死なれた時、神は私たちのために、肉において彼を罪として罪定めしました。それは私たちが、彼の復活の中で彼と一になって、神の義となるためです。ですから、キリストとの有機的な結合の中で、私たちは神の義とされています。 **ローマ8:3** 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。 **D**キリストの中で神の義となることは、私たちの存在において神に対して正しくあるという事柄です。これは、透明で水晶のように明瞭な内なる存在を持つことです。すなわち、神

の思いと意志の中にある内なる存在を持つことです。**2コリント3:8** ましてその霊の務めは、栄光の中のないわけがありませんか? **9** 罪定めする務めに栄光があるなら、まして義とする務めは、なおさら栄光にあふれるのです。**E**コリント人への第二の手紙は、信者たちが神へと完全に和解させられることと、和解の方法としてのキリストを啓示しています。**IV. 和解の二つの段階は、幕屋の二つの幕によって明確に描写されています:** **ヘブル9:3** また第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。**A** いずれの幕も唯一のキリスト、すなわち、私たちの罪のために、また私たちのために死なれたキリストを表徴します。**B** 第一の幕は「とばり」と呼ばれています:**1** 罪人は、なだめの血による和解を通して神にもたらされ、とばりを通過することによって聖所の中へと入りました。**2** このことは和解の第一段階を予表します。**C** 第二の幕はなおも罪人を、至聖所の中にいる神から分離していました:**1** この幕は裂かれる必要がありました。それは罪人が至聖所の中にいる神にもたらされるためでした。**10:19** こういうわけで、兄弟たちよ、私たちはイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります。**20** それは、彼が私たちのために、彼の肉体である幕を通して、一つの新しい生きた道を開設してくださったからです。**2** これは和解の第二段階を予表します。**V. 神へと完全に和解させられることは、私たちの心が広げられるようになります:** **2コリント6:11** コリント人よ、私たちの口はあなたがたに向かって開かれており、私たちの心は広くされています。**12** あなたがたは、私たちの中で狭くされているのではなく、自分の心の深みの中で狭くされているのです。**13** 私は、子供たちに対するように語りますが、それに応じて、あなたがたも心を広くしてください。**A** 私たちの心がどれほど広いかは、私たちがどれほど神に和解させられているかにかかっています。**B** 心の狭さは、私たちが部分的にしか神に和解させられておらず、また私たちの救いの割合がとても低いことの強いしるしです。**C** 私たちが人の違犯を赦し、それを忘れることができるなら、それは私たちが広げられた人、広い心を持つ人となったしるしです。**D** 私たちは、狭い心と広い心との間の対比に印象づけられる必要があります。**VI. 以下は和解の結果です:** **A** 神に対して平和を持つ:**1** 私たちが神に和解させられることの第一の結果は、神に対して平和を持つことです。**2** 私たちは神に和解させられ、神に対して平和を持っているので、平和の道を歩いています。これ

が、私たちが神に和解させられることの結果です。**B** 神の中で勝ち誇る:**1** 私たちは神に和解させられることの結果として、神の中で勝ち誇ることができます。**2** 私たちは主イエス・キリストを通して神に和解させられているので、神の中で勝ち誇り、歓喜し、栄光を帰します。**3** 私たちはまた神の栄光の望みの中で勝ち誇ります。**4** このこともまた、私たちが神に和解させられることの結果です。**C** 神の命の中で救われる:**1** 私たちは神に和解させられることの結果として、彼の命の中で救われつつあります。**2** この命の中で救われることもまた、私たちが神に和解させられることの結果です。**VII. 和解の務めを通して私たちは、手順を経て究極的に完成された三一の神の中へと合併され、キリストの中で、神性と人性の拡大された宇宙的な合併となります。その結果、私たちは神の聖なる所、神の住まい、神の至聖所、すなわち新エルサレムとなります。****証** 母を東京から呼び寄せ、一緒に住むようになってから5年近くになります。母は市川で20年以上教会生活をしてきており、その時一緒に教会生活をしていた一人の姉妹も先に神戸に引っ越して来ていて、私の家の近所に住んでいることもあり、神戸での教会生活にはすぐに慣れたようです。神戸に来て癌の手術を2回受け、最近は貧血がひどくなり、2週間に1度は輸血をしていますが、起き上がることが辛いらしく、週2回通っていたリハビリもやめ、昼間寝ていることが多くなってきました。朝ごとの復興も、休止することが多くなり、小組の集会の参加もできなくなり、今は主日のパンさき集会だけに参加するのがやつの状態です。外に出かけるのは難しくなりましたが、自分の家でパンさき集会をしているので、主日にパンさきの詩歌を歌って享受しています。集会をするために家をリフォームしてそろそろ2年になりますが、これも、家を開いて祝福された点の一つだと思えます。一緒に暮らしているので、生活の面倒を見ている安心感もあって、霊的な供給については二の次にしてしまいがちでしたが、昨年海外からの兄弟姉妹の訪問が続けてあり、命の流れが豊かな時に、母への命の供給が欠けていたことを照らされました。また、今年は関西大集会所建設のために捧げる機会があり、交わりの中でさらに負担を受けて捧げた後、ずっと中断していた母の朝ごとの復興が突然再開していました。不思議な命の流れに驚かされましたが、私も母も第二段階の和解の務めの中で成長する必要があることに気づきました。この和解の務めの下で、母も最後の日まで成長できることを信じ、主に感謝します。